



2020年11月13日

各 位

上場会社名 CKD株式会社
 代表者 代表取締役社長 梶本 一典
 (コード番号 6407 東証第一部、名証第一部)
 問合せ先責任者 経理部長 竹澤 正
 (TEL 0568-74-1006)

第2四半期連結累計期間の業績予想と実績との差異、通期連結業績予想の修正、 剰余金の配当（中間配当）及び期末配当予想の修正に関するお知らせ

2020年8月12日に公表しました第2四半期連結累計期間の業績予想値と実績値の差異及び通期連結業績予想の修正につきまして、下記のとおりお知らせいたします。

また、2020年11月13日開催の取締役会において、2020年9月30日を基準日とする剰余金の配当及び期末配当予想の修正を決議いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 第2四半期連結累計期間業績予想と実績との差異について

(1) 2021年3月期第2四半期連結累計期間業績予想と実績との差異（2020年4月1日～2020年9月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想（A） （2020年8月12日発表）	百万円 48,200	百万円 1,530	百万円 1,590	百万円 1,060	円 銭 16.42
今回実績（B）	49,942	2,405	2,473	1,618	24.91
増減額（B－A）	1,742	875	883	558	—
増減率（％）	3.6	57.2	55.6	52.7	—
（ご参考）前期第2四半期実績 （2020年3月期第2四半期）	47,382	1,130	1,087	683	11.03

(2) 差異の理由

当第2四半期連結累計期間における当社グループの業績は、当初公表予想を上回ることができました。要因につきましては、自動機械部門においては、新型コロナウイルス感染拡大の影響により遅延が見込まれていた自動包装システムの売上を順調に計上したことがあげられます。また、機器部門においては、国内市場はほぼ想定通りでしたが、海外市場にて、東アジアの中国ではいち早く経済活動が再開し製造業全般で生産活動の正常化が進んだこと、韓国や台湾では半導体設備投資が堅調であったことなどにより、予想を上回る結果となりました。さらには、全社で取組んだ生産性改善・経費削減活動の効果が増益に寄与し、利益率も改善いたしました。

2. 業績予想の修正について

(1) 2021年3月期通期連結業績予想の修正（2020年4月1日～2021年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想（A） （2020年8月12日発表）	百万円 96,500	百万円 3,210	百万円 3,270	百万円 2,270	円 銭 34.88
今回発表予想（B）	100,000	4,900	4,960	3,440	52.34
増減額（B－A）	3,500	1,690	1,690	1,170	—
増減率（％）	3.6	52.6	51.7	51.5	—
（ご参考）前期実績 （2020年3月期）	100,717	5,230	5,374	3,689	59.56

(2) 修正の理由

2021年3月期通期の連結業績予想につきましては、機器部門の受注状況が回復基調に向かってきていることから、当初予想から上方修正いたします。

ただし、当予想は、現在の感染状況が緩やかに改善されることを前提としており、今後の新型コロナウイルス感染症の拡大の程度や収束の時期などにより大きく変動する可能性があります。開示すべき重要な事項が発生した場合には、すみやかに業績への影響をお知らせいたします。

なお、為替レートは、1米ドル105円を前提としています。

3. 剰余金の配当（中間配当）及び期末配当予想の修正

(1) 配当の内容（中間配当）

	決定額	直近の配当予想 (2020年8月12日公表)	前期実績 (2020年3月期中間)
基準日	2020年9月30日	同左	2019年9月30日
1株当たり配当金	8円00銭	6円00銭	5円00銭
配当金の総額	532百万円	—	309百万円
効力発生日	2020年12月10日	—	2019年12月9日
配当原資	利益剰余金	—	利益剰余金

(2) 配当予想の内容（期末）

	1株当たり配当金（円）		
	第2四半期末	期 末	合 計
前回予想	—	6円00銭	12円00銭
今回修正予想	—	9円00銭	17円00銭
当期実績	8円00銭	—	—
前期実績 (2020年3月期)	5円00銭	13円00銭	18円00銭

(3) 剰余金の配当（中間配当）及び期末配当予想の修正理由

当社は、株主の皆様への利益還元につきましては、経営基盤の充実と更なる事業拡大のための設備投資や研究開発投資等を実施することにより、企業価値の向上を図るとともに、株主還元については配当性向30%を目安としております。

上記方針及び当第2四半期連結累計期間の業績を踏まえ、第2四半期末配当については直近予想から1株当たり2円増配の8円とさせていただきます。なお、期末配当予想についても、直近予想から1株当たり3円増配の9円とさせていただきますことを予定しております。

(注) 上記予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値とは異なる可能性があります。

以 上